

英語による科学の講義

11月11日（日）13:30～15:30に本校国際交流センターにおいて Alexia Petersen（ドイツのアーヘン工科大学）Stephan Petersen（技師）夫妻を講師にお迎えし、1・2年生の希望者39名に対して講座を開催しました。大阪大学大学院工学研究科マテリアル生産科学専攻・田中敏宏教授からご紹介いただき、鈴鹿工業高等専門学校材料工学科科長・兼松秀行教授に通訳をお願いしました。

講座の内容を要約しますと以下のようになります。

英語を十分に話すことができても、誤解が生じることがある。科学のように普遍性があるものでも同様である。人は、玉ねぎの皮のように、中心にその人の文化価値があり、その外側に論理性があり、さらにその外側にその人の振る舞いがある。そして、中心の文化価値には、人間関係の上下関係・個人主義・協調性があり、この3点は、文化により異なる。よって、文化の違いを理解していないと誤解が生じることがある。

英語でお話をしていただき、ある程度進んだところで日本語に通訳していただくということを繰り返して講義をしていただきました。

講義の後、生徒は英語で質問をし、英語とその日本語訳でお答えいただきました。

アンケートの集計結果	（強くそう思う）・「思う」の合計％	
科学技術に対する興味・関心が強くなりましたか。	計	88％
異文化理解が進みましたか。	計	94％
英語の必要性を感じましたか。	計	100％
英語の学習意欲が高まりましたか。	計	97％

科学技術に対する興味・関心が高まり、異文化理解が進み、英語の必要性を認識し、英語の学習意欲が高まったと思われます。

【生徒の感想から】

- ・生の英語をフルで聞くことができとてもいい機会を持てました。
- ・日本の学生と違い、ドイツの多くの学生が留学している。私も大学卒業までに留学して、様々な所に行き、幅広い考え方を身につけたいと思うようになりました。
- ・自国の文化を理解し、それに誇りを持ちながら、他国の人と交流する必要があると思いました。
- ・将来、科学の職に就くときには、文化の違いを理解することがとても重要だと思いました。
- ・ドイツに発展途上国を援助する学生のプロジェクトがあることにとても驚きを感じた。ただ単に援助をするだけではなく、その国の人々に学んでもらって国を発展させるように手助けをしているところに感銘した。

